

令和4年度第1回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
資料評価部会（美術部会）

令和4年9月21日（水）
東京都江戸東京博物館 2階会議室

午後 2 時 56 分開会

大森文化施設担当課長：本日はお忙しい中御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから令和 4 年度第 1 回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会 資料評価部会（美術部会）を開催いたします。

私、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化施設担当課長の大森と申します。本日の司会を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

資料収蔵委員会には、収集部会と評価部会がございます。収集部会は江戸東京博物館の収蔵品としてふさわしいか否かを付議する会、また、評価部会の方は江戸東京博物館の収蔵品としての価格を個別の委員の方々に評価いただく会となっております。

本日の評価部会は、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい適正な価格評価をよろしくお願ひしたいと思っております。

まず始めに、東京都江戸東京博物館副館長の田中から御挨拶申し上げます。

田中副館長：本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本評価部会では、2 件の肉筆画と 1 件の錦絵、計 3 件の資料について、その購入価格を御評価いただくものでございます。これらの資料は、当館に収蔵されることになれば、江戸東京博物館の常設展示や特別展などの展覧会でも活用が可能であり、いずれも当館の活動にとって重要な資料となるものでございます。本日は何とぞよろしくお願いいたします。

大森文化施設担当課長：それでは、本日御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきます。私の、向かって左の席から順に御紹介させていただきます。

黒田委員でございます。

近藤委員でございます。

内藤委員でございます。

野地委員でございます。

日野原委員でございます。

よろしくお願いいたします。

続きまして、事務局職員を御紹介させていただきます。

東京都江戸東京博物館事業企画課長の新田でございます。

よろしくお願いいたします。

続きまして、お手元の資料の御確認をお願いいたします。

まずお手元の一番上でございますのが会議次第です。そして A4 縦の「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会 資料評価部会（美術部会）委員名簿」「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」「令和 4 年度第 1 回資料収蔵委員会 資料評価部会（美術部会）説明資料」A3 横判の「令和 4 年度第 1 回資料収蔵委員会 資料評価部会（美術部会）資料」同じく A3 横判の「令和 4 年度第 1 回資料収蔵委員会 資料評価部会（美術部会）評価票」こちらとなっております。もし過不足ございましたら職員のほうまでお申しつけください。

また、お配りした名簿の肩書きにもし誤り等がございましたら、恐縮ですが、後ほど事

事務局へ御連絡いただければと思います。

なお、お手元の資料ですけれども、現時点で未公開の情報がございましたので、会議終了後、回収させていただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、これから議事に入りたいと思いますけれども、それに先立ちまして当部会の公開について申し上げます。

当部会は、「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」第11の規定によりまして、原則公開となっております。そのため、委員の皆様のお名前と現職名は東京都のホームページ上にて公開しております。

一方で、当部会における評価対象資料の価格評価に関する議事は、同要綱第11の第1項(1)の規定によりまして、非公開となっております。

なお、当部会の議事録は同要綱第11の第2項の規定によりまして、資料収集が決定した後、公開を予定しております。公開にあたって、個人情報など公開に差し障りのある情報がないか、事前に議事録の確認ということで、委員の皆様には確認させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは早速議事に入りたいと思います。

まず、事業課長の新田から、本日御評価いただく資料の説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

新田事業企画課長：それでは、今回御評価いただく資料について御説明さしあげます。

A4ホチキスどめの「令和4年度第1回資料収蔵委員会 資料評価部会（美術部会）説明資料」を御覧ください。

まず1件目の資料でございますが、「正月飾図」でございます。絹本着色の柴田是真作、江戸末期から明治前期にかけての作品でございます。

初日の出の絵を後方に、伊勢海老を中心に据えた豪華な正月飾が大きく描かれております。画面左下に「是真」の落款及び壺印「是真」が捺されております。本作は、表装部分も絵で描く「描表装」が用いられ、初日の出の絵の前に正月飾が立ちはだかるかのような錯覚を起こさせるトリックアートの効果を生み出しております。同様の正月飾図は、鈴木其一の作品にも見られ、本作もその流れを汲むものと考えられます。

作者の柴田是真は、江戸生まれで幕末から明治前期にかけて活躍した蒔絵師で、絵師としても高名で、江戸から明治への時代を橋渡しする作家として近年注目が高まっております。

是真に本作と同じ図様の作品がほかにもあったことは、過去の売立目録などから確認できます。例えば、是真の十七回忌にあたる明治41年に開催された「是真翁遺作展覧会」の目録に、横浜の実業家安西徳兵衛の所蔵として「絵表具五節句図 五幅対」が掲載されており、そのうち正月にあたる「人日図」という表題の作品が本作と類似しております。また、昭和2年に行われた売立会「勝伯爵家柳下家御蔵品目録」に「掛蓬萊」の題で同様の

作品が掲載されております。

当館では平成29年度に是真の三男梅沢隆真に伝来した粉本集「柴田是真絵様手控類」166点を収蔵しておりますが、その中に本作と同図のものが含まれております。この粉本には正月飾の海老の部分に複数の紙が貼られ、海老の位置を試行検討した跡が認められます。

当館では、この粉本集及び菊池容斎の「小塚原図」の中廻に描いた地獄極楽図を除いて是真単独の肉筆作品は未だ収蔵しておりません。本作をその粉本と合わせて収蔵することで、作品研究に資することができます。また、常設展示「江戸の美」コーナーなどでの活用が見込まれます。

続いての資料は、「竹に群雀図」でございます。こちらも絹本着色の柴田是真作、江戸末期から明治前期にかけての作品でございます。

本図には竹林に雀の群れが舞い降り集う光景が描かれております。画面左下に「是真」の落款及び壺印「是真」が捺されております。作品を収納する箱には是真の門弟で池田泰真と並ぶ十哲の一人、庄司竹真が最晩年の81歳のときに鑑定し認めた箱書及び7月22日付で鑑定料を受領した旨の文書が入っております。

昭和11年に行われた「某男爵家某大家所蔵品入札」の目録に、竹真の箱書による「竹群雀」の図が画像と共に掲載されており、本作がこれに該当する作品と考えられます。

柴田是真は江戸や京都で四条派の画を深く学び、その画風の上に江戸の粋と遊び心を加味した親しみやすい絵画を制作いたしました。竹に雀の図は古来縁起のよい画題として好まれ、是真も幾つかの作品に取り入れております。本作は雀が空中から次々と軽やかに舞い降りる姿や、水面に自分の顔を映して見入る雀の愛らしい仕草など、軽妙洒脱ないかにも是真らしい作品です。

本作も、これとほぼ同じ構図による粉本が当館所蔵「柴田是真絵様手控類」の中に確認できます。「正月飾図」と並び、柴田是真の肉筆画の一点として、粉本と合わせて収蔵することで作品研究に資することができます。

最後に、「海運橋 第一銀行雪中」でございます。

明治期の浮世絵師、小林清親の明治9年頃の作品です。清親は明治9年からいわゆる「光線画」と呼ばれる光と影を細やかに捉えて表現した木版画を刊行いたしました。文明開化が進む東京の風景を主題にした作品は、一連のシリーズとしてみなされるようになり、清親の代表作としても知られております。本作はその1図でございます。

本作には明治6年開業の第一国立銀行を大きく捉え、その前にかかる石造の海運橋と橋を往来する人々を描いております。この擬洋風建築は当時から注目され、多くの開化錦絵にも描かれる東京の新名所でした。同時代の開化錦絵に比べ色調は暗く、かつ、新名所であるこの建物を誇張して描くのではなく、雪景色の落ち着いた景観の中に描いております。画面中央に立つ女性の番傘には「銀座」「岸田」とあり、岸田吟香の銀座の目薬店を宣伝する意図が込められたものと考えられております。

当館は、清親の東京風景版画を既に65図収蔵しております。本作は未収蔵作品の中でも

代表的なもので、明治初期の東京の都市風景を紹介する上で貴重な資料と言えます。常設展示「文明開化東京」コーナーで活用できます。

説明は以上でございます。

大森文化施設担当課長：ありがとうございます。

それでは、実見後にも質疑応答の時間を設けておりますけれども、現段階で何か御質問、御意見ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、次に評価方法について御説明いたします。

先ほどお伝えしましたA3横の評価票、こちらに金額を記載していただきまして、御署名いただきます。評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの価格の平均値を委員会としての評価額とさせていただきます。

よろしいでしょうか。

それでは、資料の実見をしていただきたいと思いますので、御足労をおかけしますけれども、会場への移動をよろしくお願ひします。

また、資料に関する個別の御質問については会場で学芸員へお尋ねいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

大森文化施設担当課長：それでは、皆さんお戻りですので議事を再開させていただきます。

資料を御覧になりまして何か御意見、御質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、お手元のA3横の評価票、こちらに評価価格の記載と御署名をお願いいたします。なお、金額は消費税込みとなっておりますのでよろしくお願ひいたします。ペンで御記入いただければと思います。

(評価票記入)

大森文化施設担当課長：御記入がお済みになった方は係の者が確認させていただきますので、挙手またはお声がけください。よろしくお願ひします。確認が終わりましたら、御退席いただいて問題ございません。そのまま会議終了とさせていただきます。本日はありがとうございます。

午後3時41分閉会

以上